

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
3年	・何事にも意欲的に取り組み、音や音楽を楽しみながら活動できる児童が多い。しかし、協働しながら活動することが苦手な児童もあり、丁寧な言葉掛けが必要である。技能に関しては個人差があるため、個別での支援が必要である。	・個別指導の時間をとり、個々の課題に応じた指導を行う。また、担任と連携しながら、個々の特性に配慮しながら指導する。 ・スモールステップを設けることで、出来た達成感と充実感をたくさん味わわせ、音楽への興味、関心を高めていく。
4年	・様々なことに興味や関心があり、積極的に学習することができる。しかし、楽しむところで留まってしまうので、音色を聴き合わせたり、最後まで丁寧に演奏したりすることを指導する必要がある。	・友達と聴き合い、発表する場をつくることで、人に伝えることの喜びや、最後まで丁寧に音楽をつくりあげることの大切さを学ばせる。 ・音色に気を付けて演奏できるように、互いの音を聴き合うことに着目して指導する。
5年	・意欲的に活動に取り組んでいる。しかし、音楽表現を工夫したり、主体的に考え表現したりすることに苦手意識を感じている児童が多い。主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら、思いや意図をもって生き生きと表現できるようにしてほしい。	・ペアやグループごとの発表の機会を設け、達成感を味わわせるとともに、人に伝えることの喜びや丁寧に音楽をつくりあげることの大切さを学ばせる。 ・思いや意図が表現につながるように、ワークシートを活用し、個々の意見や思いを大切にしながら、協働活動に取り組ませる。
6年	・何事にも真面目に取り組む児童が多い。自分の思いや意図をもって表現したり、曲想と音楽との仕組みや関わりに気付いて聴いたりする活動に意欲的に取り組むことができる。しかし、それを生かして音楽表現を工夫することが難しい。	・表現活動では、基礎的な技能を高め、自分たちの思いや意図を表現に生かして合唱したり、合奏したりすることができるよう、題材構成を工夫する。 ・多様な音楽の魅力に気付かせることで、自分たちの表現に生かしたり、友達と伝え合ったりできるようにする。